

つながる、つなげる。そして広がる…。
「にじ」は、女性も男性も共に輝ける明日へのかけはしです。

虹

にじ

No.22
平成 27.3.1 発行

墨田区男女共同参画情報誌



- 02 巻頭インタビュー
「食」から学んだ大切なこと
料理研究家

コウケンテツさん

- 04 ■ 特集
メディアと
上手に付き合うために

専門家の意見箱

フェリス女学院大学文学部コミュニケーション学科教授
諸橋 泰樹 さん

- 08 Information インフォメーション

- 10 ツアコンすみこさんとめぐる
世界ツアー【世界のジェンダー事情】
フランス共和国

- 11 イクメン カジダン 投稿写真

- 12 **People Voice** はじめの一步

東京東信用金庫 人事部人材開発担当副部长
大島 真代 さん





「食」から学んだ大切なこと
料理研究家

コウケンテツさん

「ご飯を残すようなやつは一人前になれない」と言われていた子ども時代。

「いただきます」と「ごちそうさま」の大切さを僕も伝えていきたいです。

子ども時代やご家族とのエピソードを教えてください。

両親の教育方針は「食べる」とがこの世で一番大切なこととあり、「いただきます」と「ごちそうさま」の中に全てが込められている」というものでした。だから悪さをしてあまり怒られなかったのですが、ご飯を残したり食事を抜いたりすると、とても怒られました。両親は共働きで朝から晩まで忙しくしていたのですが、毎日3食必ず手料理を作ってくれました。母は「ご飯を食べるときに家族のことが一番わかる」と言っていました。食べ方で元気なのか、体調が悪いのか、悩み事があるのかなどがわかるというのです。人数分の食事を毎回作るの大変だったと思うのですが、いつも母は鼻歌交じりで…。そんな母の姿から、料理や食事は楽しいものだということを知りました。母がいる小さなキッチンにみんなで集まるのが当たり前でしたし、母は食事のときに近所の人をたくさん招待するんです。人でごった返すのですが、そこが僕にとって社会勉強と文化交流の場になりました。何より食事の時間が大好きでした。

このように手料理で育った僕ですが、思春期になると、部活帰りなどにジャンクフードに流れたこともありました。でもいつしか手料理の味が恋しくなってくる。そうなるように母が味覚の基礎を作ってくれていたんですね。やはりインスタント食品やジャンクフードが味覚のベースになると、和食の味を薄く感じたり、昆布出汁を水としか思えなかったりします。それは本当にもったいない。だから子どもの頃に、毎日ではなくても手料理を食べれば、家の味噌汁がうまいと気付くときが必ず来ます。僕は韓国にルーツがあり日本で生まれ育ったので、幸運にも両方の家庭料理の良さを知っています。

プロテニスプレーヤーを目指していたらしゃったそうですね。

15歳でテニスを始めたのですが、今まで経験したスポーツの中で一番難しくして！それで面白くなって夢中になり、「プロになりたい」と思ってしまったんです。それから生活の全てをテニスにかけました。時間が足りなくて、親を説得して高校も辞めさせてもらいました。当時は韓国籍で学歴が無いなんて絶対に苦勞するからと、大反対されましたが、最終的には家族でバックアップしてくれました。食事もトップ選手の真似をしました。たし、そこで栄養学など料理の勉強もしたんです。20年後に役立つとは思わずに。でも、無理がたたって椎間板ヘルニアになってしまい、プロへの道は断念。闘病生活が2年間続きました。それはパブルがはじけた頃で、家の事情も相まって家計が苦しく、社会復帰してからは、朝から晩までお金を稼ぐために働いていました。

ご夫婦のエピソードを教えてください。

母の手伝いを通じて知り合った出版社の方が、「これからは男も料理をする時代だから」と連載に僕を大、大、大抜擢してくださったんです。そこから、撮影のために大阪から東京へ通う生活が始まりました。その初めての撮影で出会ったのが妻です。やりとりをするうちに「今後のことを考えたら絶対に東京に来たほうが良い」と言ってくれましたが、当時はお金も住む場所もありませんでした。それで妻のところへ転がり込んだ形です。豪胆な人なんですよね。だから僕の仕事を軌道に乗るまでは、妻がバリバリ働いて、僕が主夫業をしていました。

また、妻は、ケンカでも何でも、何となく終わらせることを嫌がるので、何でも言葉にして話し合います。最終的に僕が謝るといいう構図ができており、そ

れが我が家の夫婦円満の方程式です。職場と家庭は全然違うので、家庭にはプライドを持ち込まないほうが良いと思います。

僕はイクメンイベントや講演会でいろいろな方とお話をするのですが、子育てが楽しいという方は、ほぼ夫をうまく操っています。妻は非常に私の操縦がうまく、またほめるのがうまいのです。昔、脳科学の先生と対談をさせてもらったときに「男の脳3歳説」を教えてもらいました。女性は妊娠すると、母親の脳にバージョンアップするけれど、男の脳は基本的に教育しないと構造が変わらないのだとか。だから、3歳の子どもが片

付けをちゃんとできたときにはめるように、夫もほめる。面倒でも、ほめると家の空気がすごく良くなりますし、そのうち夫も妻をほめてくれるようになります。

家事や育児でのポイントや家族内のルールなどはありますか？

妻が妊娠したとき、今後について徹底的に話し合いました。やってほしいこと、やってほしくないことなんかもね。そこで妻に洗濯物をたたまないでと言われたんです。それまで、実は妻が後からたたみ直していたらしく

。ショックでした。男としては、やったことに対して指摘されるとカチンと来ることもあります。でも、言ってくれないとわからないので、理由が理解できたら素直にうなずけます。

子どもが生まれてからは子どもに合わせて早起きをして、1時間かけて朝食を食べています。生活のリズムができて数倍楽しくなりました。今は息子も料理をするので、一緒に買い物をする素材を選ばせませす。素材に対する興味もわくし、責任感が芽生えて食事を残さないので。チャレンジ精神も旺盛になります。この前、息子に「料理研究家になろうかな」と言われて、自分が大切

にしていることが伝わってるなあ」と感動しました。今は宇宙飛行士になりたいそうです。

僕は家で仕事をしているし、子どもを保育園に預けられなかった時期が長かったので、子育てのどうしようもない、追い込まれる感じを嫌というほど知っています。だから、もっと男性も家事や育児をやるべきだと話すのですが、「外で働いている人にそんなことを言えない」という女性も少なくありません。男性だけでなく、女性の意識も変わるべきだと思うのです。専業主婦、共働き等それぞれ生活スタイルは違えど、家事や育児のしんどさは、もっと夫婦で共有すべきだと思いますし、できるなら隣にいる人にも頼れば良いと思うのです。例えば、僕が荷物を取らんさん持ち、子ども2人を連れていた時、息子が走って行ってしまったので、そこにいたタクシーの運転手さんに娘の抱っこをお願いしました。「俺がやるの!」って言われました。僕が僕は息子を追い走りました。そういう壁を男性が破ってほしいです。

それから、僕が作った離乳食を子どもが食べてくれずにすごく辛かった時期がありました。でも、食べるときと食べないときがあるんですよ。それで一喜一憂しないで、ときには諦めることも必要なんだと実感しました。しんどかったら無理をしない!ですね。

今後料理研究者として目指していききたいもの、伝えていききたいことは何ですか？

両親の教育方針が尊敬できる素敵なものだったので、食べ物の大切さは常に訴えていきたいです。日本は食料自給率が先進国で最低の水準なんです。こんなに食べ物がおいしくて自然が豊かな国なのに。だから「食」の問題と「農」の大切さも、一緒に伝えていきたいです。

あとは子どもの料理教室をやっていることですね。子どもにとって料理はすごくプラスの効果があるんですよ。先日、保育園の父母会で、公民館を借りて子どもの料理教室をしました。一から準備するのは初めてで大変でしたが、普段の仕事への感謝の気持ちも生まれました。何より子どもたちが楽しそうで、「またやらないの?」と声をかけてくれます。料理の力を改めて感じましたし、子どもに教えるに行ったつもりが僕が教わっています。

僕が一番好きな国は日本です。でも若い人たちは、日本だけでなく世界に目を向けたいところからしんどくなると思います。今は高度経済成長期や終身雇用の時代とは違う。だからこそ、思い立ったことは何でも挑戦したら良いと思います。僕のように思いもよらないところに出会いはありますから。



メディアと 上手に付き合うために

テレビに新聞、雑誌、広告、インターネット…。

高度な情報社会である現代において、

私たちは、多くの情報に囲まれて生活しています。

多様なメディアが発信するこれらの情報と

賢く付き合っていくために、

情報の受け手である私たちが

主体的にメディアを読み解く力、

「メディア・リテラシー」を身に付けることの

必要性が高まっています。



情報に囲まれた世の中を 賢く生きるための心構え

テレビや新聞、雑誌をはじめ、広告やインターネットなど、様々なメディアから絶え間なく多くの情報が発信されている現代の社会。情報は私たちの暮らしにとって欠かせないものとなっています。新聞を読んだり、インターネットで情報を検索したり、自らが能動的に得る情報もあれば、電車の中で見かけた電子ニュースやテレビドラマの合間に見たCMなど、受動的に目や耳に入る情報もあります。

これらの多種多様な情報の中には発信する側の意識や意図による偏った情報が含まれることが少なくありません。そうした表現を、情報の受け手である私たちが、知らず知らずのうちに受容してはいないか、自分自身で意識してみることが大切です。メディアの情報を的確に読み取り、正しく使いこなす「メディア・

リテラシー」の力を身に付けることが、現代社会に生きる私たちにとって必要不可欠になっています。

メディア・リテラシーとは？

「メディア」を直訳すると「媒体」となり、伝達する手段という意味になります。テレビや新聞などマス・メディアと呼ばれるものもあります。DVDやUSBといった電子媒体を記憶メディアと称することもあります。

一方で「リテラシー」には、もとも読み書きする力という意味があり、「識字」と訳されます。そこから、情報の応用力、受信と発信を含めた活用力を指すようになっていきます。

高度情報通信社会が進展する中で、総務省はメディアからもたらされる膨大な情報を、各人が無条件に受け入れるのではなく、主体的に読み解いていく能力が不可欠であると、メディア・リテラシー（★データー）を向上させるための支援を行ううとしています。

平成22年に決定した国の第3次男女共同参画基本計画においても、メディアを通じて男女共同参画に関する正しい理解を広め、固定的性別役割分担意識を解消していくこと、メディアにおける性・暴力表現の自主規制などに対し、メディア側も積極的な取り組みを行うよう働きかけることを掲げています。また、様々な情報を主体的に収集、判断し、適

切に発信することができるよう、個々のメディア・リテラシーを向上させる取り組みを継続して進めていくこと、また、メディアに関わる業界における女性の参画を拡大するよう働きかけることとしています。

メディアと賢く付き合うために メディアのことを知ろう

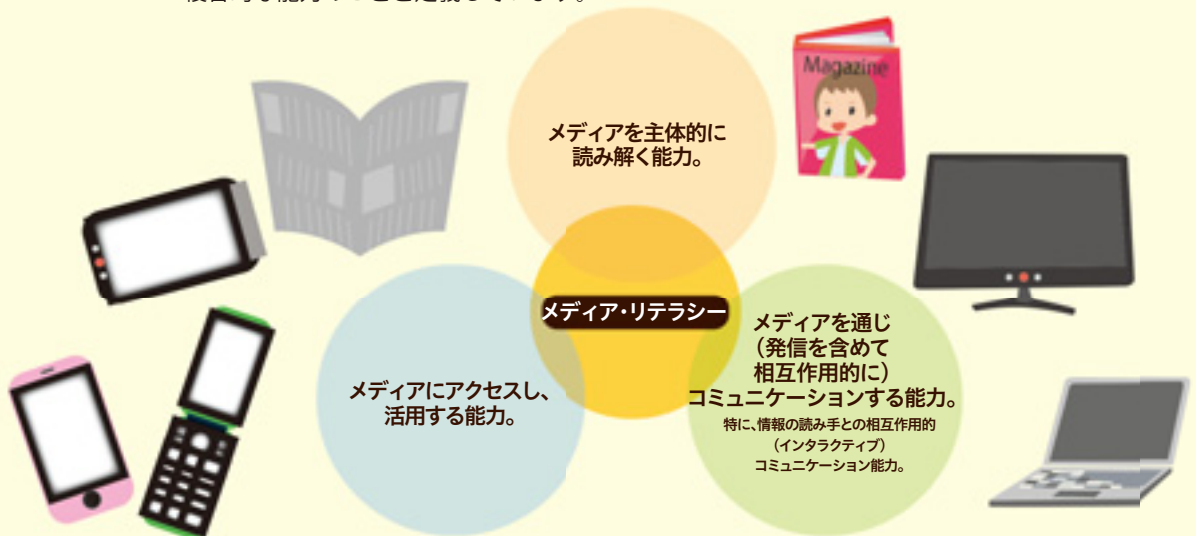
メディアからの情報を客観的に読み解いていくためには、知っておいたほうが良いことがあります。それは、メディア情報には「作り手」がいるということです。つまり、作り手の意図はもちろんです。視聴者や読者といった受け手のニーズや、時間や紙面の都合などによって、「編集されたもの」であるということです。

例えば、「30%」という事実を、「30%にも及ぶ」とするか「30%に過ぎなかった」とするかで、受け手の印象が大きく変わります。印象というものは、作り手の語尾の表現一つで、簡単に操作されてしまうものなのです。また、例えニュースであっても、誰かが「構成・演出・編集」したものであり、「事実の一面」に過ぎないこと、そして「事実そのもの」ではないかもしれないという感覚を持つておくことが必要です。そして、その「作り手」の後ろには、莫大な資金を提供しているスポンサーがいて、その結果として、情報がスポンサーに配慮したものになっている可能性があることも、頭の片



メディア・リテラシーの定義

総務省では、メディア・リテラシーを、次の3つを構成要素とする、複合的な能力のことと定義しています。



総務省「放送分野におけるメディア・リテラシー」
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyouzai.html

男女共同参画の視点で、メディアから流れる情報を見てみましょう。最近では、男女共同参画の意識が少しずつ広がり、働く女性や、育児や家事をする男性の姿が表現されることも増えてきました。一方で、「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」といった固定的な性別役割分担を肯定するような価値観で描かれているものも、いまだに少なくありません。また、ドラマなどの中で、女性への暴力が描かれることや、女性の性的な側面が強調された表現などもあります。画一的に表現された女性像や男性像が日々テレビなどに流れ、それらが無意識のうちに私たちに影響を与える可能性の怖さを、今一度、考えて

隅に置いておきましょう。最近では、ツイッターやフェイスブックなど、社会的なネットワークをインターネット上で構築するソーシャル・メディアが発達し、従来マスコミが発信してきた情報とは質的に異なる、個人が発信する情報に触れる機会が増えています。中には事実でないものや悪質なものもあるため、ますます個人がそれらの情報を見分け、自分にとって有益な情報を取捨選択する力や、正しい情報やモラルある情報を発信していく力を身に付けることが大切になっています。

男女共同参画の視点でメディアをウォッチング

実際には、新聞や放送業界など、メディアの制作現場で働く女性の割合は少なく(★データ2)、作り手が男性中心であることも課題とされています。メディア分野への女性の進出は、女性に配慮した情報提供のあり方や、内容の偏り防止などに取り組むにあたって、重要な役割を果たすと期待されています。

さて、最後に皆さんに質問です。冒頭のテレビのイラストを見て、どのように感じましたか? 無意識に見て受け取った印象と、下にあるイラストを見ての印象を、ぜひ、ご自身の視点で比較してみてください。そんなところから、個々のリテラシーが磨かれていくのかもしれない。

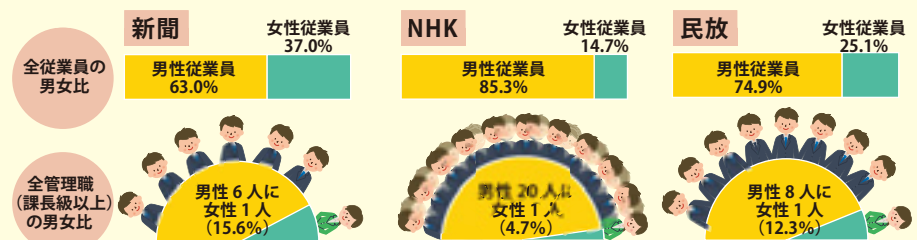
見る必要があります。毎日触れるメディア情報の中にある何となく「気になる」「表現などを、まずは「おかしいな」と気付くことができる感覚を磨くことが、メディアにひそむ差別的な表現を社会からなくしていく一歩につながります。

その気付きを行動につなげることも大切です。「おかしい」「へんだな」「いやだな」と感じる表現や情報提供のあり方に対する意見を、ハガキやメールなどで発信者へ伝えていくことが、メディアを変える力となります。逆に、素敵だと思ったことも伝えていくなど、「良いもの」を育てる意識を持つことも、メディアと良い関係を築いていくためにプラスとなります。

■ 右上のテレビのイラストと比べてみましょう



新聞や放送業界における全従業員と管理職に占める女性の割合 (平成25年度)



* 民放は民放連加盟社、NHKは日本放送協会、新聞は日本新聞協会加盟社の数値。
資料：内閣府『男女共同参画局』(2014年1月号、2014年2月号、2014年3月号)

「メディアと良い関係を築くための第一歩」 「メディア・ウォッチング」

メディアを読み解く力を付けよう

日々の中で何気なく目にしているテレビのコマーシャル(CM)。たった15秒ほどですが、そこに描かれる女性像や男性像は、時代を映す鏡のようなものです。

扱う商品ごとにCMを見てみると、家事や育児に関するものも多くに女性が描かれ、菓子のCMでは、会社を休めない夫や、病気の子どもを気づかう献身的な母親の姿が未だに多く描かれています。一方で、栄養ドリンクのCMには、バリバリ働く会社員の姿として男性が描かれることが多いようです。

最近では、料理や育児をする男性が登場したり、洗濯や掃除、

食器洗いなど、男性が家事をしているCMもあります。また、働くお母さんを応援するようなCMを見かけることも多くなりました。しかし、子育ても家事も看病もこなして働くのが「お母さん」だけで良いものなのか、違和感が残ることもあります。

莫大な製作費をかけて作られるテレビCMには、商品広告だけでなく、企業の姿勢や方針が凝縮されています。CMを見る側は無意識に見ていることが多いものですが、繰り返し放送される15秒の中に、どんな表現が使われているのか、少し意識を高めてウォッチングしてみたいかがでしょうか？

ニュースや
テレビ番組でも…

女医とか女社長とか
女弁護士とか…。なん
で「女」を付ける
必要があるのかな？

ニュースなどで、容疑者が
女性だったときに、下の名
前で呼んでいたことがあ
ったわ。男性だったらそんな
呼び方しないのにな。



CMで
気になったことは？

洗濯洗剤の使用感のアンケ
ート結果をCMで流していたけど、
アンケート対象が女性だけという
のは、どうなんだろう。

ゆるる胸元をアップにしたスポ
ーツドリンクのCMがあっただけ
ど、商品と胸は関係ないと思
いました。でも私の彼は、このCM
を気に入っていたみたい。

食器洗いがゆううつと話す母親
に、夫と息子が「新しい食器洗
剤」を勧めるというCMがあ
ったけど、つい「あんたたちが洗
いなさいよ!」とつっこんじゃ
いました…。



case.2

子どもの遊び場
のご案内



性別にこだわ
らず自由な服
装で、男女が
混ざって遊ぶ



区が作成する
チラシ・ポスター
なども気を付けて
います

case.1

相談会のご案内



女性が補助的
な役割に
いるの
ではなく、
男女同
様に



メディアを見るときに
「あれ?」と思う視点が、
自分自身の身を守るために
とても大切になってきます。

メディアに対する視点

メディアと接する際に大切な視点としては、まず、メディアに最終的に載るものは、膨大な情報から取捨選択されたものである、という認識を持つことです。そして、その載らなかった情報に対して、重要なものがあつたかもしれない、という研ぎすまされた感覚を持つことが大切です。さらに、その情報を使いこなす、読み・書き、計算(解く)といった知的能力も大切となります。何より情報の開示を要求する姿勢を常に持つことが必要です。これらは社会的な性差、つまりジェンダーの問題であるだけでなく、自分自身の身を守るためにも重要な能力です。

メディアとジェンダーと多様性

これからの社会は、ダイバーシティ、すなわち「多様性」が鍵となります。例えば、最近ではレスビアンやゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなどLGBTと称される、多様な性を持つ人たちが声を上げるようになってきました。アメリカ版フェイスブックの性別欄は50種類以上もあり、体は男で心は女、男でも女でもないなど、男女という2つの世界だけではなくなっています。人を決めつけて見ることも判断することもできない、ということがジェンダー論の最前線です。ただメディアはまだ最前線ではなく、相変わらずという部分があります。今後否応なく多文化共生の方向に進み、様々な人たちと一緒に過ごしていくのですから、単一の人間観・社会観ではやっていけません。だから、メディアが多様なものを報道すること、我々が多様性に慣れていくことが大事だと思います。

メディアはイメージを型にはめがちですし、女性らしさや男性らしさといったものは言葉づかいや身体の動作の演出一つで簡単に作り出すことができます。そして実は、我々自身の認識も多様性に耐えられず、白黒はつきりさせることを求めている部分があります。それが「名付け」です。名付けられた側にすれば良い迷惑ですが、人間は名称が無いと不安になりますし、それ自体が無いことになつてしまつて永久的に名付けざるを得ない。そして、名付けた途端に必ず例外が現れます。「私は違う」と傷つく人が出てくることもあるでしょう。だからジェンダー論や多様性論の最前線は、世の中の型にはまった固定観念を、いかにして突き崩すかを考えます。

メディアとジェンダーへの気づき

もう一つ意識しておいてほしいのは、メディアの作り手は、私たち受け手と大きくジェンダーのとらえ方が違うわけではないということです。メディアの作り手によってメディアのジェンダーが作られ、そのジェンダーにまた我々が認識を縛られて、メディアに循環していく、そんな円環の構造ができています。その円環から少しずつでも螺旋状に、より良い方向へと上昇していくためには、「何かおかしい」と気づいたことを周囲の人たちと、話し合うことが良いと思います。

具体的には、下のリストを参考に新聞や雑誌、テレビ番組などで、登場人物の性別や年代、しぐさや服装、映像効果や音楽など、どういった描写がされているかを書き出していくと良いでしょう。そうすることで、例えばドラマで女性が食事の支度をしている中、男性はソファで新聞

を読んでいたりと、事件の容疑者を報道する際、男性は苗字で呼ぶ一方で女性は名前と呼ばれていたりと、いろいろな気づきことができます。素材そのものに矛盾や差別があるので、違いを書き出し、対比して客観視すれば、あらゆるところにジェンダーの指標があふれていることがわかります。それらについて話し合うことで、自分の考えが整理されたり、洗練されたりするなど、気づきの良いチャンスになると思います。

メディアへの働きかけにおいては、良いものをほめることがポイントです。メディアは文句を言われてもほめてもらえることはあまりないようです。単にほめるだけではなく、「男女がこのように描かれていて新鮮でした」など、具体的な意見にする非常に効果的と言えます。

普段「不思議とは思っていないこと」を「不思議だと気づく」のは大変なことです。そのためには知的訓練が必要です。つまり、知的な好奇心と知的な要求です。「なぜ、なぜ、なぜ」とクリティカル(批評的)に突き詰めていくことが大事です。思考を停止してしまつと支配する側の思うがままになつてしまいます。分析力を身につけていくということがメディア・リテラシーにおいてはもちろん、これからの情報社会では、自分たちの権利を守るために大切になってくると思います。

テレビCM分析リスト (諸橋さん作成)

商品名	
商品の種類	
登場人物	性別
	役割(職業、キャラクター)
	年代
	場面
	行動・しぐさ
	服装・色
演出等	せりふ(内容・しゃべり方)
	映像効果
	音響
	音声(内容・しゃべり方)
	音楽
	テロップ・字体
その他気づいたこと	

CMやテレビ番組などを見て、気づいたことをリストに書き出してみましょう。普段は見逃している場面に「あれ?」と気づくことがメディアに対する重要な視点になります。



セミナー&意見交換会① 「男女共同参画の視点での防災セミナー」を実施しました

公募の区民の方などからなる「墨田区男女共同参画推進委員会」の「意見交換会部会」の企画による今年度第1回の「意見交換会」を10月22日（水）にすみだ女性センターで開催しました。

- 【セミナー講師 浅野幸子氏】
- 早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員
 - 減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、プロジェクト・コーディネーター



男女共同参画の視点での防災セミナー・浅野講師

セミナーでは、災害が起きて避難・復興という道のりの中、「男女共同参画」の視点が欠けていることで実際に起こる問題などを、具体的な事例を通してお話しいただきました。講師が実際に阪神淡路大震災、東日本大震災などの支援活動を行った体験から実感したことであり、災害時は身近なところで想像を超える問題が起こり得ることがわかりました。

例えば、阪神淡路大震災における兵庫県内の死亡者のうち、震災の「直接死（窒息、圧死、焼死など）」が85・65%に対し、避難生活中の



意見交換会グループ討議の様子

「関連死（肺炎、インフルエンザ、既往症の悪化など）」が14・35%となっています。これは、避難生活がいかに過酷であったかを表しています。その環境整備において、生活者の視点が弱かったことが指摘されています。

また、避難所運営の責任を担い、体調を崩したり過労死する男性リーダーもいたことから、運営に当たっては、いろいろな意見や要望を集約できるよう、女性も男性も、異なる立場の人が運営に携わり、仕事を分担することが重要であるとの話もされていました。

セミナー後の意見交換会では、近い将来「起こるもの」として災害を捉え、普段から備えておくことが大切、という意見が多く聞かれました。

（参加者からの意見（抜粋））

- 町会では新規の会員も減少しており、このままでは町会を母体とした地域のネットワーク自体が機能しなくなると心配している。「防災」の切り口で固定的な性別役割意識にとらわれない分担で訓練をする、特に若い人や子育て世代にも防災対策の重要性を説いて町会未加入者も誘うなど、いろいろなことができるのではないかと。

- マスコミ等の報道では知り得なかったことがたくさんあった。こういったことも伝えるべきである。
- 平時時にある差別意識などが、災害時には大きくなると思う。地域とのネットワーク構築とともに平時からの教育が大切。



意見交換会の様子



【事務局】
人権同和・男女共同参画課
(区役所 12 階)
TEL 03-5608-6512



区では、区内で起きた男女共同参画社会の形成を妨げる事柄について、区民等からの苦情を受け付けるため、苦情調整機関「墨田区男女共同参画苦情調整委員会」を設置しています。

この委員会では、区民等からの申出内容を審査し、必要に応じて関係者へ助言・指導・是正の要請・意見表明を行います。また、区の施策に対する苦情については、是正勧告・改善意見の提案を行います。

墨田区男女共同参画 苦情調整委員会委員委嘱

この度、新委員の選任を行い、3人の方に委嘱状を交付しました。委員は男女共同参画に優れた見識を有する弁護士等の方々です。

職員研修を行いました

墨田区では、様々なテーマで行う職員向け研修の中で、男女共同参画に関する理解を深めるための研修も行っています。

今年度は、フェリス女学院大学の諸橋泰樹教授をお招きして「メディア・リテラシーと男女共同参画」と題した研修を行いました。

研修では、実際のテレビ番組の検証を行いながら、その中にある作り手の意識的、無意識的な操作による偏りなどに気付く体験をしました。これらを通して、常に公正、公平な公務員であるために、普段何気なく見過ごしてしまいがちな固定的性別役割意識の押しつけや、差別的な扱いの正当化などに、「気付く」ことの大切さを学びました。



研修中の様子
(中央が講師の諸橋氏)

すみだ女性センターからのお知らせ

すみだ女性センターは男女を問わず利用できる施設です。男女共同参画社会の実現に向けた講座や講演会のほか、男女共同参画関連の情報資料の貸出・閲覧、また施設の貸出（有料）も行っています。

講座等の詳しい内容や日時、申込方法は、すみだ女性センターへお問い合わせください。区報等でもご案内します。

また、専門のカウンセラーが女性の持つ様々な悩みやDVに関する相談をお受けしますので、お気軽にご利用ください。

男女共同参画推進のための拠点施設 すみだ女性センター～すずかけ～

【開館時間】

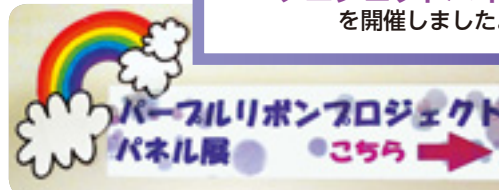
月曜日～土曜日 午前9時～午後9時
日曜日・祝日 午前9時～午後5時
〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目12番7-111号
TEL 03-5608-1771 FAX 03-5608-1770

女性のための カウンセリング & DV相談

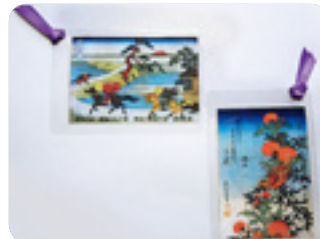
【相談日時】
月・火・水・金曜日、
第2土曜日
午前10時～午後4時
要予約
TEL 03-5608-1771



女性に対する暴力をなくす運動期間中、 パープルリボン プロジェクトパネル展 を開催しました。



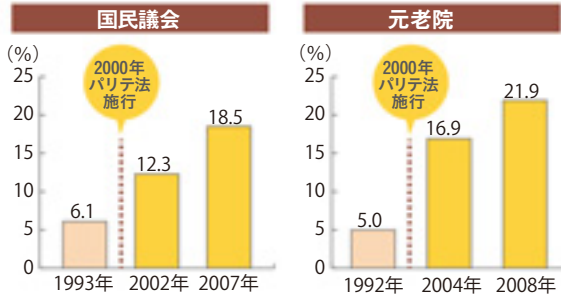
パネル展に併せて「北斎が描く女性」パネルも展示し、紫色のリボンを結んだ「女性センター特製北斎しおり」を配布しました。「女性のためのカウンセリング&DV相談」の案内を裏面に掲載しPRしました。





フランスでは、子育て支援は独立した政策ではないの。高齢者や障害者等も包括した「家族」全体を総合的に支援することが目的よ。

パリテ法施行後の女性議員の割合



資料：内閣府男女共同参画局「共同参画」(2011年3月号)



ツアーコンすみこさんとめぐる

世界ツアー

世界のジェンダー事情 フランス共和国

ヨーロッパ連合（EU）最大の国土面積を誇り、複数の島が点在する国、フランス共和国。首都はパリで、人口は約6582万人。約750件の文化財がユネスコ世界遺産に登録されており、世界最多の観光客数を誇る観光大国です。フランスの象徴である三色旗は、フランス革命下、国王の色（白）とパリ市の色（青・赤）が結びついて生まれました。革命のときに掲げられたシンボルの一つである標語「自由、平等、友愛」は、現在では憲法にも明記された国家遺産の一部となっています。ブルゴーニュ地方ボジョレー地区で作られるワイン「ボジョレー・ヌーヴォー」の解禁日は、毎年日本でも盛り上がりを見せています。

フランスは1970年代以降出生率低下に悩まされてきましたが、少子化対策と家族政策により出生率低下・人口減少に歯止めがかかりました。2010年の合計特殊出生率は2.01と同年の欧州連合27か国の平均値である1.59を大きく上回っています。¹

フランスの家族政策の特徴の一つである家族手当の始まりは1860年に海軍省が通達した手当までさかのぼります。1939年に「家族法典」が制定され、戦後、フランスの社会保障制度の基礎となった「ラック・プラン」をもとに家族手当金庫の設置などが進められました。現在の家族手当は20歳未満の子どもを2人以上扶養している世帯が受給対象となっており、所得制限はありません。また、1946年から導入された、子どもが多いほど税が優遇される「N分N乗方式」²も特徴です。人口の維持・増加を図るために、特に第3子以降に対する給付に重点が置かれました。

そして、フランスの柔軟な育児休業も家族政策の特徴となっています。フランスは伝統的に子どもを乳母に預ける習慣があり、フランスの「認定保育ママ」³や「家庭保育所」は日本のモデルともなりました。

また、フランスの母親の就業率は、子どもの年齢が低い段階でも高く、その他、既婚・非婚に関わらず税制や社会保障などで結婚と同等の権利を保障する「PACS（連帯市民契約）」⁴が導入されたことも影響し、フランスにおける婚外出生比率は50%を超えています。⁴

国公立の幼稚園から大学までの学費は基本的に無料よ。



フランスでは、1990年代からパリテ⁵の主張が盛んになり、1999年に憲法が改正され、両性の政治参画平等を促進することが明示されました。2000年には通称「パリテ法」⁶が成立し、元老院選挙で4人以上の議員を選出する場合は候補者名簿の登載順を男女交互とすることが示されました。国民議会選挙では、政党や政治団体に所属する候補者の男女比を同率とすることとされ、差が2%を超えた場合には制裁として国から政党や政治団体に配分される助成金が減額されることとなりました。

その他、フランスの規格団体であるAFNORでは、職場における男女平等を実践している企業や差別的撤廃活動を実施している企業に対して、「職場における男女平等ラベル」や「多様性（差別撤廃）ラベル」を付与する認証活動を行っています。⁷多様性ラベルについては2012年8月現在で380社以上が認証を取得しています。⁷

末子の年齢が3～5歳の母親の就業率



日本

47.5%



フランス

63.8%



日本

28.5%



フランス

53.7%

(いずれも2005年)

資料：縄田康光「立法と調査」(297) (2009年10月)

*1 財団法人自治体国際化協会『CLAIR REPORT No.374』(2012年8月)

*2 家族を課税の単位とみなし、家族の所得の合計額を「家族係数」(大人は1、子どもは2人目までは0.5、3人目以降は1)で除し、係数1当たりの課税額を決める(N分)、さらに家族係数を乗じて家族全体の税額を決める(N乗)ため、子どもが多いほど有利なシステムと言われる。

*3 2005年時点で37万7,000人の認定保育ママが登録されており、うち26万4,000人が稼働している。厚生労働省『平成20年版厚生労働白書』(2008年8月)

*4 フランス国立統計経済研究所 (INSEE) Web サイト

*5 「parite」同等・同一という意味で、ここでは男女同数、男女平等を意味する。

*6 「選挙によって選出される議員数及び公職への男女の平等なアクセスを促進することに関する2000年6月6日法律」

*7 リクルートワークス研究所 グローバルセンター『フランスの労働政策と人材ビジネス』(2014年3月)



読書の時間
T.Nさん

パパが読むとかいじゅうの魅力も倍増！みんなが楽しい時間です。

イクメン
カジダン

イクジイ
も可！

墨田でキラリ！投稿写真



**パパ
だいすき**
新米かあさん

息子が泣き止まない夜は眠るまで抱っこ。お風呂やオムツ交換もこなす、とてもお世話上手なパパです。



大きくなあれ
佐々木 真千さん
(夫 達也さん)

越えてきてまだ1年半ですが、墨田区が大好きです。実家が遠方で手助けがない中、夫と力を合わせながら日々奮闘しております。

応募規約 イクメン カジダンの写真を募集しています！！

作品の応募にあたっては、「応募規約」に同意いただくことが必要です。ご確認ください、同意の上で応募ください。

募集写真のテーマ

イクメン/カジダン/イクジイの写真（1年以内に撮影したもの）
※応募者または、被写体が墨田区内に在住、在勤、在学の方
※子育て、家事をしている男性（子どもがいない方も可）

応募方法

作品の応募は電子投稿（Eメール）のみとします。以下の内容を記載し、Eメールで応募してください。

- 1) 写真のタイトル
- 2) 応募者（撮影者）の名前（フルネーム、本名）
- 3) ペンネーム（掲載する際に使用）
※記載のない場合は、本名を掲載します。
- 4) 写真についての50字以内のコメント
- 5) 被写体との関係（本人/友人/夫など）
- 6) 連絡先（住所、電話番号）

応募について

- メールの件名を、必ず「写真投稿」としてください。
- 写真のデータは2MB以内のJPEG形式でお願いいたします。
- お一人様何枚でも応募可能ですが、被写体1人につき1枚の応募とします。
- 応募1回につき添付する画像は1枚とします。
- 郵送による投稿の受付は行っておりません。

注意事項

- 作品は、著作権や肖像権、プライバシーを侵害するおそれのないものに限ります。写真に写っている方に、必ず承諾を得てください。肖像権その他の権利は、応募者の責任において処理いただいた上でご応募ください。
- 応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募者は区に対し無制限の使用権を許諾するものとします。（区の他事業等にも使用させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。）
- 応募が多数の場合は選定のうえ掲載させていただきます。
- 選定結果についての問い合わせにはお答えできません。
- 掲載枠の都合上、写真やタイトル、説明文等について、こちらで加筆や修正、トリミングをさせていただく場合があります。
- 本応募に起因して生じる損害に付き、区は一切責任を負わないものとします。

投稿先

niji@city.sumida.lg.jp

HPは

検索

墨田区イクメン

で検索してください。



は
じ
め
の
一
歩

大島 真代さん
Masayo Oshima

墨田区両国に本店を置く東京東信用金庫（ひがしん）の人事部人材開発担当副部長。女性管理職の魁として同金庫で活躍。平成26年4月から、墨田区男女共同参画推進委員に。

常に感謝の気持ちを持って、
皆さんが気持ちよく仕事ができるよう
心がけています。



東京東信用金庫の人事部人材開発担当副部長として活躍されている大島さん。昭和54年に入庫した当時は、管理職はみんな男性というのが当たり前の時代だったそうです。現在は500人の女性が在籍し、出産後の職場復帰はほぼ100%。女性の活躍を支援している同金庫の先輩として、後輩の指導に当たっています。

お忙しい中、墨田区男女共同参画推進委員として協力いただき、ありがとうございます。

「とんでもないです。信用金庫に勤めて36年のうち、17年は墨田区でお世話になっていきます。そんな御縁もあるので恩返しできればと思っています。何より、女性も男性も、それぞれが能力を生かして輝ける社会を目指すという考えに賛同しましたので。1年目の今は、ひたすらに皆さんのお話を聞き、勉強させていただいています。町会の方など様々な立場の意見や専門家のお話を伺え、とても勉強になっていきます。例えば東日本大震災の避難所における女性の大変さや、DV（ドメスティック・バイオレンス）や若い世代におけるデートDVの問題など、とても大切なことなのに、私と同様に知らないままにいる人が多いのではないのでしょうか。そういったことを伝えていくことの大切さを痛感し、男女共同参画推進委員の責任を強く

感じているところです。」
管理職として、活躍の大島さんですが、ふだん大切にしていることは何でしょうか？

「常に平らであること」です。部下に平等に対応することはもちろん、常に相談しやすいように、変わらぬ姿勢でいることを心がけています。そして、年上の方には、人生の先輩として敬語で話すようにしています。正社員であろうとパートであろうと、部下であろうと、そこは関係ありません。

勤め始めた当初は、女性は一般職のみの採用でした。総合職でない課長以上の役席に上がれないため、これからの時代に女性の活躍が不可欠だと上司や周囲に勧められ、迷いながらも総合職へと転換しました。その後、課長・副支店長や事務管理の副部長などを務めました。私は一般職が長く融資業務の経験がないため支店長になるのは

難しそうです。しかしながら現在は総合職で融資業務の経験を積んで活躍する女性が増えていきますから、そう遠くない日に、女性として初の支店長が誕生することでしょう。」

現在では育児休業制度などが整い、出産後の復帰率はほぼ100%となっているそうです。給与明細と一緒に組織改正などの情報紙を同封したり、年3回、「育児休業ママの会」を開催しているとのこと。

「復帰の際はいったん人事部で仕事をし、慣れてから各部署へ配属される仕組みです。多くの方が短勤務制度を利用しますが、その権利を主張するばかりでは、現場でうまくいきません。自分のフォロワーを誰かがしてくれているという感謝の気持ちと、勤務時間内は一杯働く心がけが大切です。『お互い様』と思ってもらえる関係性を築くためには、自らの努力が必要だということを、自分の経験も踏まえて伝えるようにしています。」

